

IBM i 2025

IBM i コンテンツ (2025年11月版)

RD_i (Rational Developer for i) を使ってみよう

日本アイ・ビー・エム株式会社
テクノロジー事業本部
IBM Powerテクニカルセールス

RD i 9.8 (Rational Developer for i) を使ってみよう

IBM i の開発現場では、長年 SEU や PDM を使った開発スタイルが主流でした。しかし、昨今では GUI ベースで生産性を高める開発ツールとして RD i (Rational Developer for i) の活用が広がっています。

RD i は、ソース編集・補完・デバッグ・比較・検索など、多くの機能を Eclipse ベースの統合開発環境として提供し、開発効率の向上や品質改善に大きく貢献します。

本資料では、RD i 9.8 の概要からインストール、IBM i との接続方法、実際のソース編集やデバッグの操作まで、初めての方でも一通り体験できる内容をまとめています。

まず触ってみることをゴールに、導入時のポイントや補足情報も紹介していきます。

目次

1. RD i (Rational Developer for i) 概要

2. 実際に使ってみよう

1. RD i (Rational Developer for i) のインストール

2. RD i (Rational Developer for i) と IBM i の接続

3. ソースメンバーの編集・コンパイル

4. 固定長ソースを FF RPG に変換・デバッグ機能の起動

3. 補足情報

1. RDi (Rational Developer for i) 概要

IBMが提供するRPG 開発ツールの3つの選択肢

	概要	サポート	費用	RPG Ⅲ	RPG Ⅳ	FF RPG
5250開発環境 (ADTS)	- エディター、デバッガ、画面設計、帳票設計、DB設計などの機能も含んだCUI環境用ツール ※画面設計、帳票設計等はツールサポート終了	IBM (SWMA)	有償	○	○	△ ※1
Rational Developer for i (RDi)	- GUI環境で使用可能な開発環境 - Eclipseベースのツール - 桁表示とプロンプト利用可能 - 固定フォームRPG のコーディングも利用しやすい	IBM (SWMA)	有償	○	○	○
VS Code + Code for IBM i	- 業界標準のIDEでGit/IFS連携や軽快な操作性が魅力 - 拡張機能によってIBM i プログラム開発が容易 - Code foe IBM i 等の主要な拡張機能はOSSとして提供	コミュニ ティ サポート	無償	△ ※2	△ ※2	○

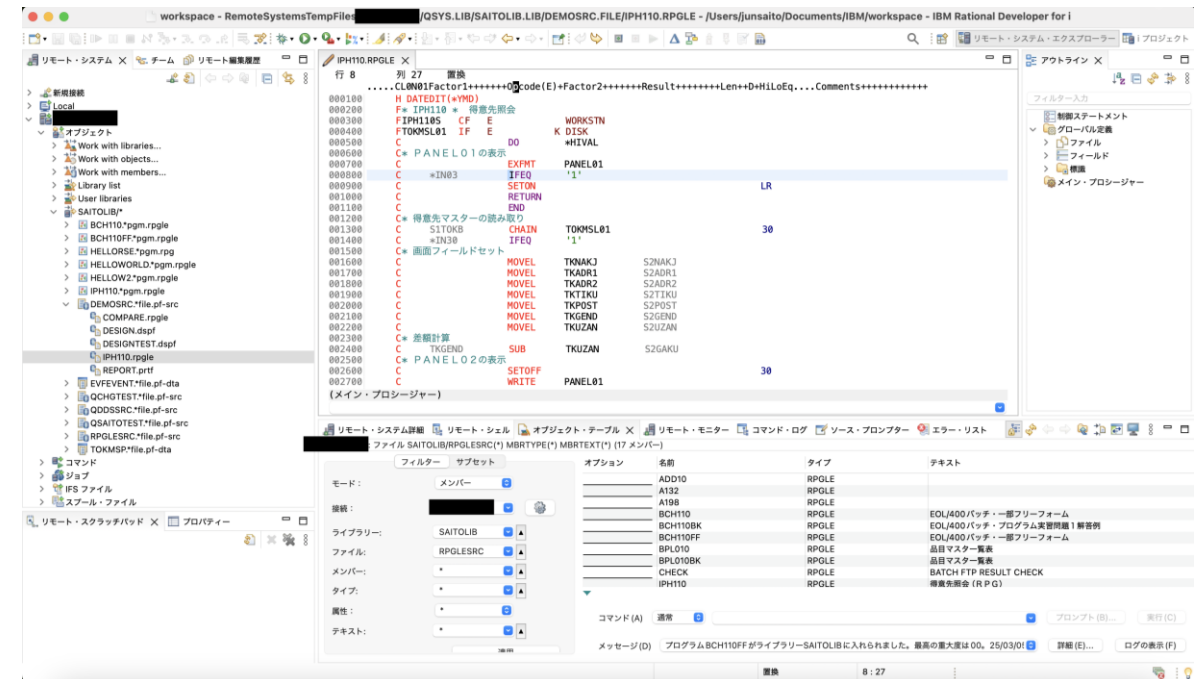
※1：完全FF RPGについては、SEU、EDTFコマンド（WRKLNK→OPT.2）で編集可能だが、画面表示エリアの制約や関数補完がない。固定フォームを維持しながら一部、FF RPG化することも可能。

※2：SEUのような桁ごとの意味を説明する機能付きのプロンプトはない。

Rational Developer for i (RDi) とは



- ✓ EclipseベースのIBM i 向けの統合開発環境
 - ファイル管理、ソース・メンバーの編集、コンパイル、デバッグ機能
 - RPG III、ILE RPG (RPG IVとFF RPG)、COBOL、CL、C、C++、SQLおよびDDSの言語に対応
 - GUIで直感的な操作
- ✓ 既存5250資産への対応が簡単
- ✓ 動作の安定性に加えて、IBMサポートあり
- ✓ 日本語で使用可能



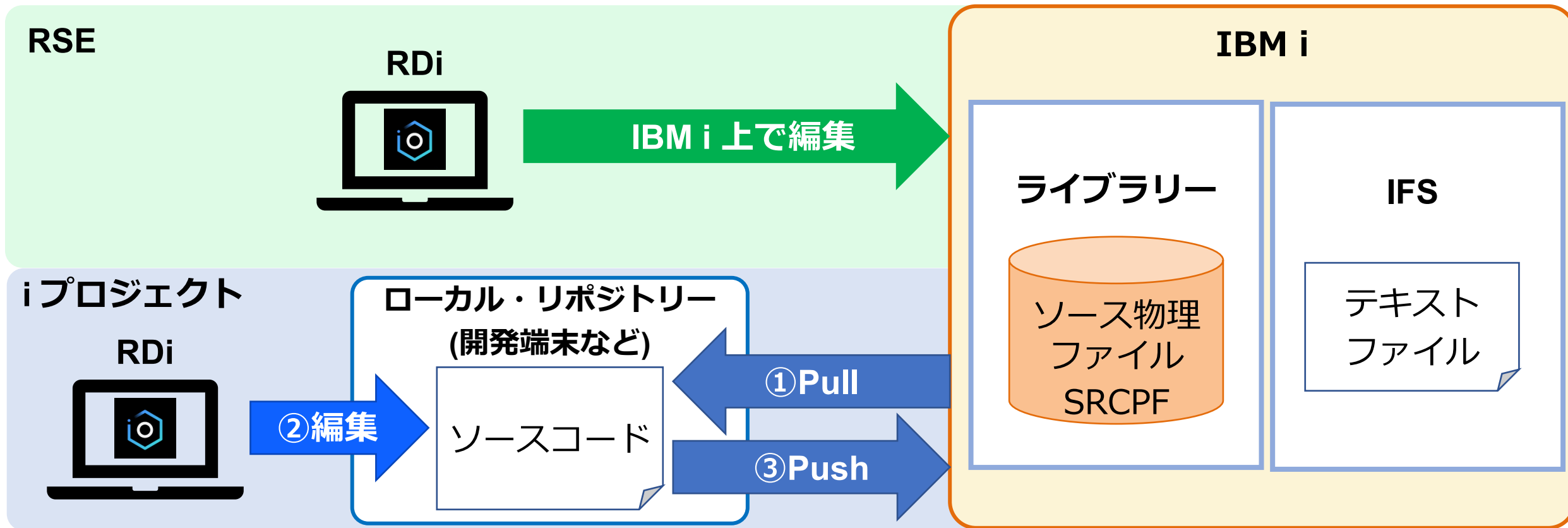
RDiのIBM i アプリケーション開発スタイル (パースペクティブ)

◆ RSE(リモート・システム・エクスプローラー)

- 5250開発環境(SEUやPDMなど)をEclipseに移植した環境で、IBM i 上で編集してコンパイル

◆ iプロジェクト

- 開発端末かコード・サーバー上のソースコードをRDiで編集し、IBM i へPushしてコンパイル



画面構成

メニューバー

ツールバー

使用中のパーспекティブ

編集エリア
エディター画面管理エリア
ナビゲーターペイン
パーспекティブに応じた
情報を表示情報エリア
オブジェクト情報、
プロンプト、エラーログ、
コマンドログなど
様々な情報を表示制御ステートメント
グローバル定義
ファイル
フィールド
指標
メイン・プロシージャー

フィルター	サブセット	オプション	名前	タイプ	テキスト
モード:			ADD10	RPGLE	
接続:			A132	RPGLE	
			A198	RPGLE	
ライブラリ:			BCH110	RPGLE	EOL/400 バッチ・一部フリーフォーム
ファイル:			BCH110BK	RPGLE	EOL/400 バッチ・プログラム実習問題1 解答例
			BCH110FF	RPGLE	EOL/400 バッチ・一部フリーフォーム
メンバー:			BPL010	RPGLE	品目マスター一覧表
			BPL010BK	RPGLE	品目マスター一覧表
タイプ:			CHECK	RPGLE	BATCH FTP RESULT CHECK
属性:			IPH110	RPGLE	得意先照会 (R P G)
テキスト:					

通常 [v] [v] プロンプト (B)... 実行 (C)

メッセージ (D) プログラム BCH110FF がライブラリー SAITOLIB に入れられました。最高の重大度は 00。25/03/01 [v] 詳細 (E)... ログの表示 (F)

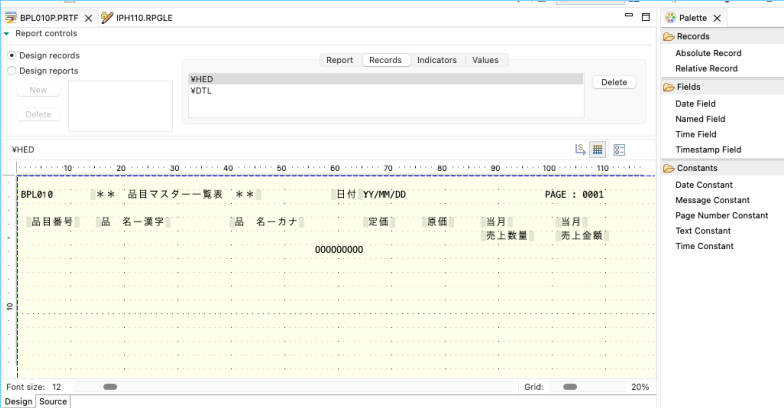
置換 8 : 27

[v] [v] [v]

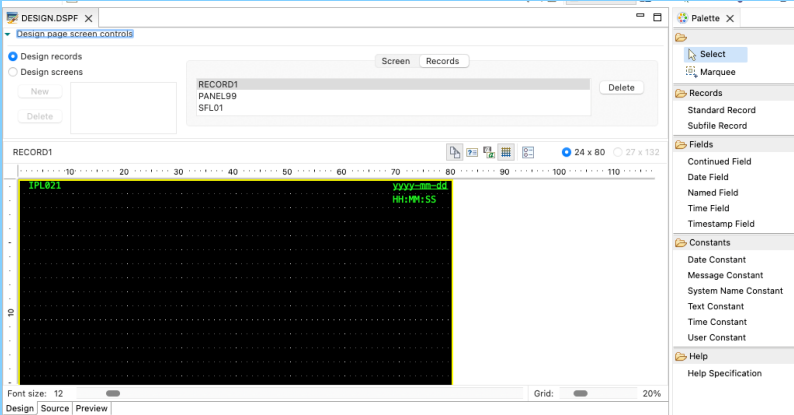
ユースケース 1：ADTSでサポートが終了する機能の代用

ADTSの機能	機能の説明	RDiの代替機能
報告書設計ユーティリティ (RLU)	帳票を設計・編集できるツール	レポート・デザイナー
画面設計機能 (SDA)	5250画面を設計・編集できるツール	スクリーン・デザイナー
ファイル比較および組み合わせユーティリティ (FCMU)	2つのソースファイルやオブジェクトを比較して、違いを確認・統合できるツール	ソースコードの比較・マージ

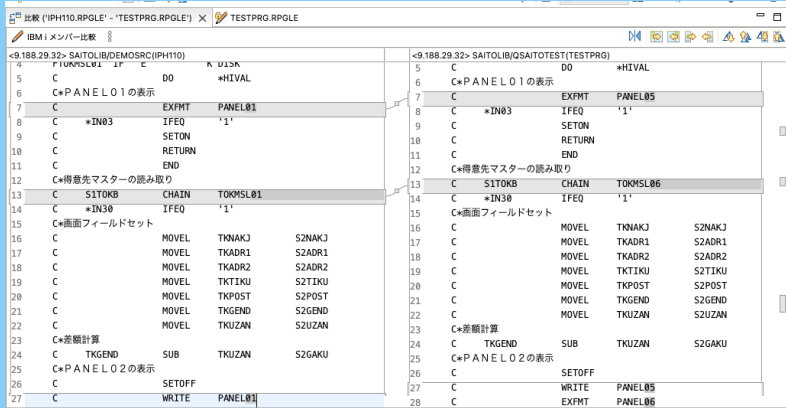
レポート・デザイナー



スクリーン・デザイナー



ソースコードの比較・マージ



ユースケース 2：若手技術者・オープン系技術者のIBM i 開発

カーソルの位置

色分けされて見やすい表示

選択肢からマウス操作で選択可能

固定長→フリーフォーム変換可能

変換

プロンプト機能

クリック

```
.....CL0N01Factor1+++++Opcode(E)+Factor2+++++Result+++++Len++D+HiLoEq....Comments+++++
000100 H DATEDIT(*YMD)
000200 F* IPH110 * 得意先照会
000300 FIPH110S CF E WORKSTN
000400 FTOKMSL01 IF E K DISK
000500 C DO *HIVAL
000600 C* PANEL01の表示
000700 C EXFMT PANEL01
000800 C *IN03 IFEQ '1'
000900 C SETON
001000 C RETURN
001100 C END
001200 C* 得意先マスターの読み取り
001300 C S1TOKB CHAIN TOKMSL01
001400 C *IN30 IFEQ '1'
001500 C* 画面フィールドセット
001600 C MOVEL TKNAKJ S2NAKJ
001700 C MOVEL TKADR1 S2ADR1
001800 C MOVEL TKADR2 S2ADR2
001900 C MOVEL TKTIKU S2TIKU
002000 C MOVEL TKPOST S2POST
002100 C MOVEL TKGEND S2GENO
002200 C MOVEL TKUZAN S2UZAN
002300 C* 差額計算
002400 C TKGEND SUB TKUZAN S2GAKU
002500 C* PANEL02の表示
002600 C SETOFF
002700 C WRITE PANEL01
002800 C EXFMT PANEL02
002900 C *IN03 IFEQ '1'
003000 C SETON
003100 C RETURN
```

000500 C DO *HIVAL
000600 C* PANEL01の表示
000700 C EXFMT PANEL01
000800 C *IN03 IFEQ '1'
000900 C SETON
001000 C RETURN
001100 C END
001200 C* 得意先マスターの読み取り
001300 C S1TOKB CHAIN TOKMSL01
001400 C *IN30 IFEQ '1'

000500 C DO *HIVAL
000600 // PANEL01の表示
000700 EXFMT PANEL01;
000800 IF *IN03 = '1';
000900 *INLR = *ON;
001000 RETURN;
001100 ENDIF;
001200 // 得意先マスターの読み取り
001300 CHAIN S1TOKB TOKMSL01;
001400 *IN30 = NOT *FOUND;

制御
レベル
N01
演算項目 1
*IN03
IFEQ
結果フィールド
*1'

ユースケース 3：フリーフォームRPGを用いた開発

複数のソース・メンバー
を同時に開く

FFRPGの最新の
ステートメントまでサポート

コンテンツ・
アシスト

エラー行と
エラー内容の表示

行 24 列 16 置換 4 個の変更

000100 HDATEDIT(*YMD)

000200 F*BCH110 得意先マスター一覧表の印刷

000300 FTKMSL03 IF E K_DISK

000400 FQPRINT 0 F 132 PRINTER OFLIND(*INOF)

000500 FQPRINT 0 F 132 PRINTER OFLIND(*INOF)

000600 /FREE

000700 DCL-S WKRIYO ZONED(9:0);

000800 EXCEPT MIDASI;

000900 DOW *IN99 = '0';

001000 // 得意先マスターの読み込み カ

001100 READ TOKMSL03;

001200 *IN99 = %EOF;

001300 IF *IN99 = '0';

001400 // 利用可能額の計算

001500 // TKGEND SUB TKUZAN WKRIYO 9 0

001600 WKRIYO = TKGEND - TKUZAN -100;

001700 // 真変えの確認

001800 // OF EXCEPT MIDA

001900 IF *INOF = *ON;

002000 EXCEPT MIDASI

002100 // OF SETOFF

002200 *INOF = *OFF;

002300 ENDIF;

002301

002400

002500

IF

IF 命令コードを使用して、条件が一致した場合に一連の命令コードを処理できます。その機能は IFxx 命令コードの機能に似ています。相違点は、標識で値が決まる式 (標識式) によって論理条件が表されることです。IF 命令によって制御される命令は、indicator-expression オペランド内の式が真である場合に実行されます。

エラー・リスト

ID	重大度	行	位置	接続
RNS9308	50	0	SAITOLIB/RPGLESRC(BCH110FF)	
RNF5507	30	20	SAITOLIB/RPGLESRC(BCH110FF)	
RNF7031	00	3	SAITOLIB/RPGLESRC(BCH110FF)	
RNF7031	00	3	SAITOLIB/RPGLESRC(BCH110FF)	
RNF7031	00	3	SAITOLIB/RPGLESRC(BCH110FF)	
RNF7031	00	3	SAITOLIB/RPGLESRC(BCH110FF)	
RNF7031	00	3	SAITOLIB/RPGLESRC(BCH110FF)	
RNF7031	00	3	SAITOLIB/RPGLESRC(BCH110FF)	
RNF7031	00	3	SAITOLIB/RPGLESRC(BCH110FF)	
RNF7031	00	3	SAITOLIB/RPGLESRC(BCH110FF)	
RNF7066	00	3	SAITOLIB/RPGLESRC(BCH110FF)	
RNF7086	00	3	SAITOLIB/RPGLESRC(BCH110FF)	
RNF7031	00	3	SAITOLIB/RPGLESRC(BCH110FF)	

2-1. 実際に使ってみよう

Rational Developer for i (RD*i*) のインストール

Rational Developer for i (RDi) のインストール

- [Fix Central](#)からインストールを実施します
- 無料版は120日間無料で使用できます
- 有料ライセンスの適用は[Entitled Systems Support \(ESS\)](#)から実施します
- **Register customer number**の登録を実施したのち、License Activation KitをSoftware Downloadsから実施します

IBM Entitled Systems Support | My Entitled Software ▾ | My Entitled Hardware ▾ | My Inventory ▾

Software Downloads

Start | Step 1: Product | Step 2: Language | **Step 3: Package** ▶ Step 4: T&Cs | Step 5: Method | Step 6: Download

Step 3: Product download package selection

Current products ⓘ

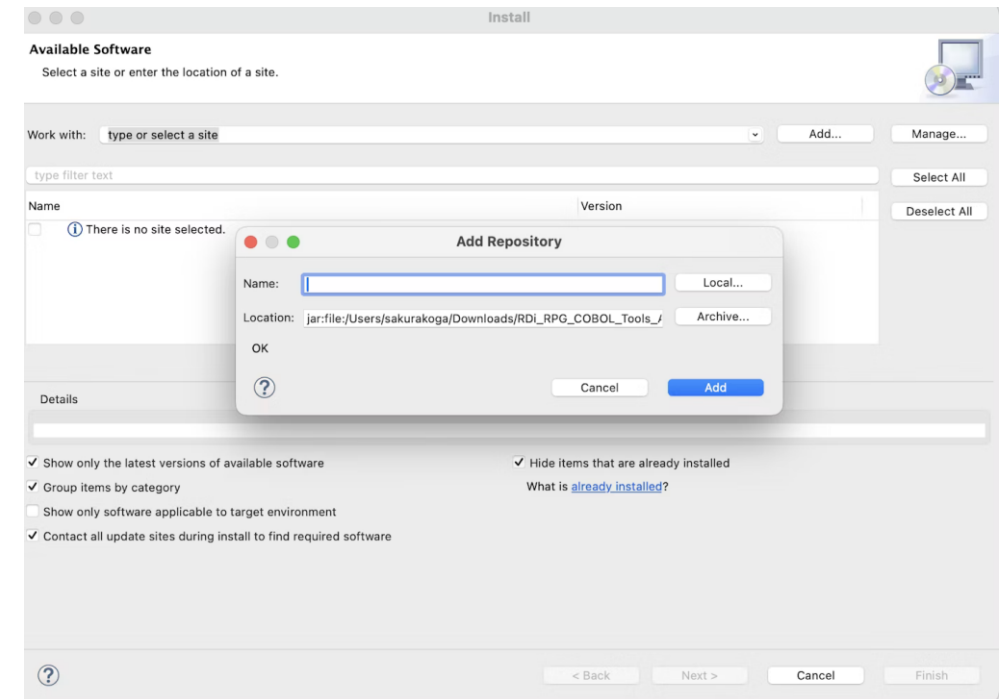
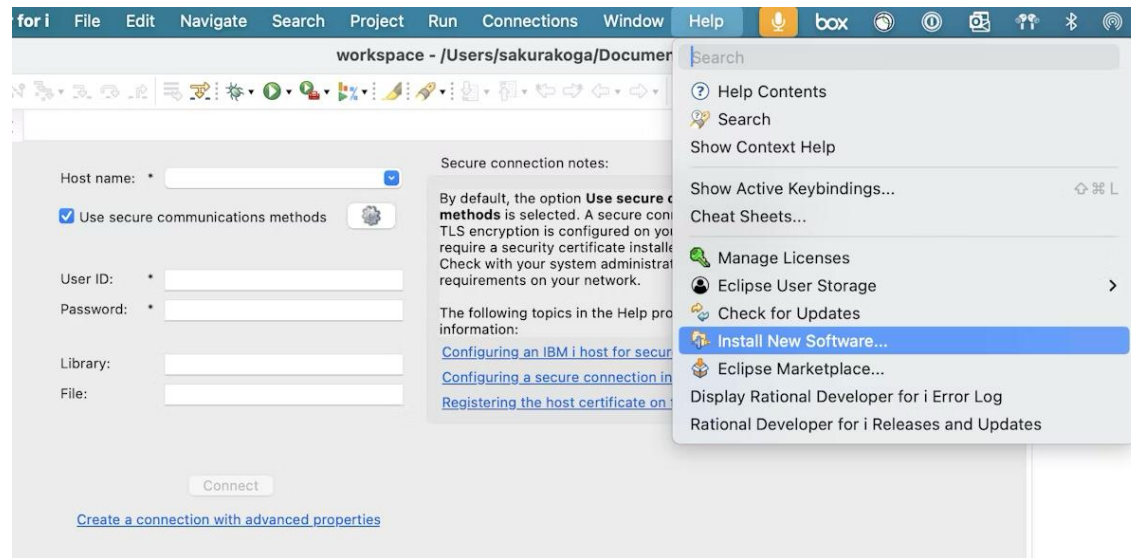
Withdrawn products ⓘ

☐ Select all Search package title:

Product/Release		Download Package	Size (MB)
5733-RDW	details	☒ Rational Developer for i	50848
09.06.00	packages	☐ 5849: RPG and Cobol Tools v09.06.00,MUL,DVD	11082
09.06.00	packages	☐ 5850: RPG and COBOL+ Mod ToolJava v09.06.00,MUL,DVD	37956
09.08.00	packages	☒ 5859: RPG and Cobol Tools v09.08.00,MUL,DVD	1810
Total download size (MB):			1810

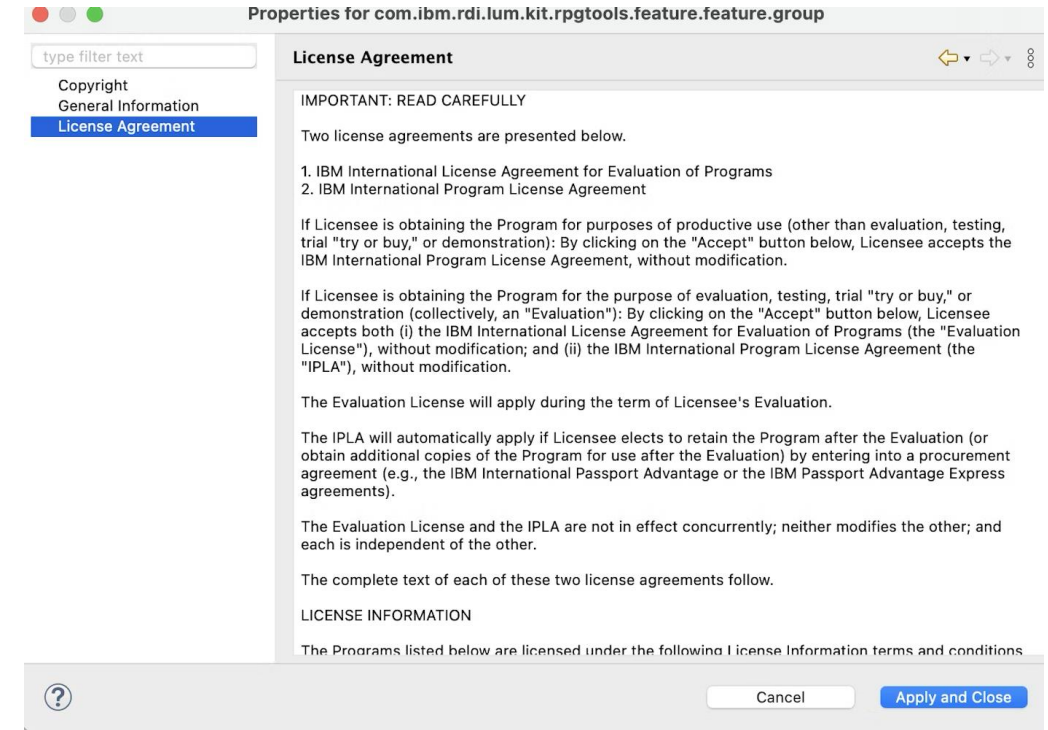
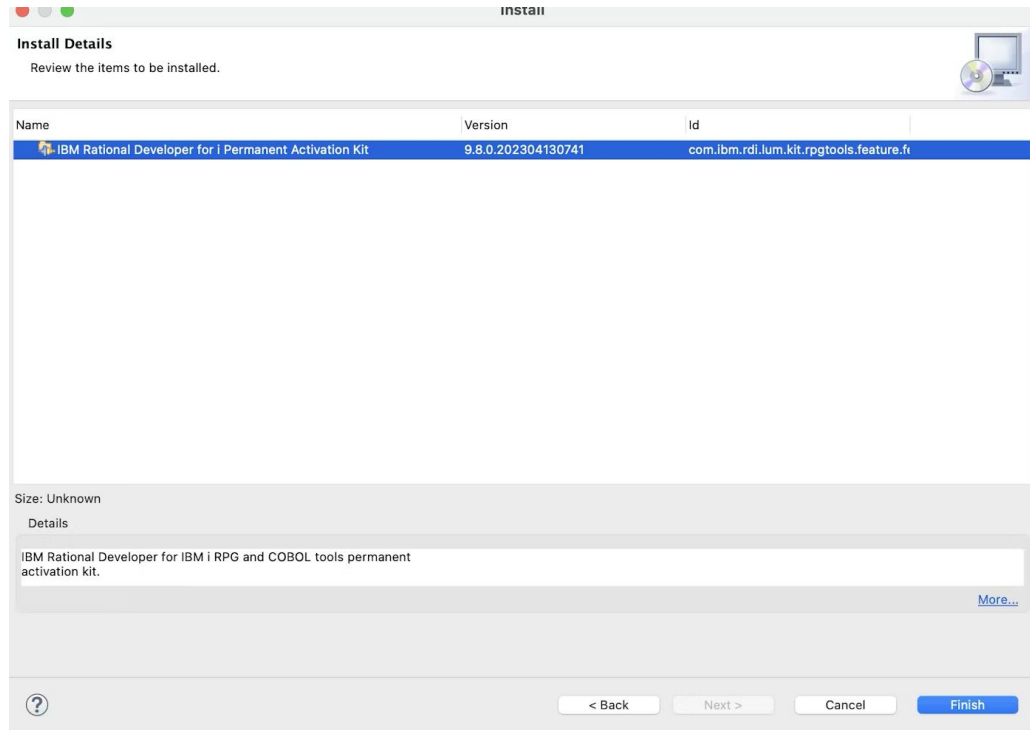
Rational Developer for i (RDi) のインストール

- 有料版ライセンスを適用します。
- Help>Install New Softwareを選択し、右上Add>Archive...からLicense Activation Kitの**zipを解凍せずに選択**します。
その後、選択したzip解凍して、解凍済みzipファイルに含まれるzipを適用します。
- 選択したら右下の青いAddを選択します。



Rational Developer for i (RDi) のインストール

- ライセンス名をクリックすると、右下に出現するMore...の表示を選択します。
- その後Apply and Closeをクリックします。
- 再起動後、Manage licenseタブにて恒久ライセンスの適用が確認できます。

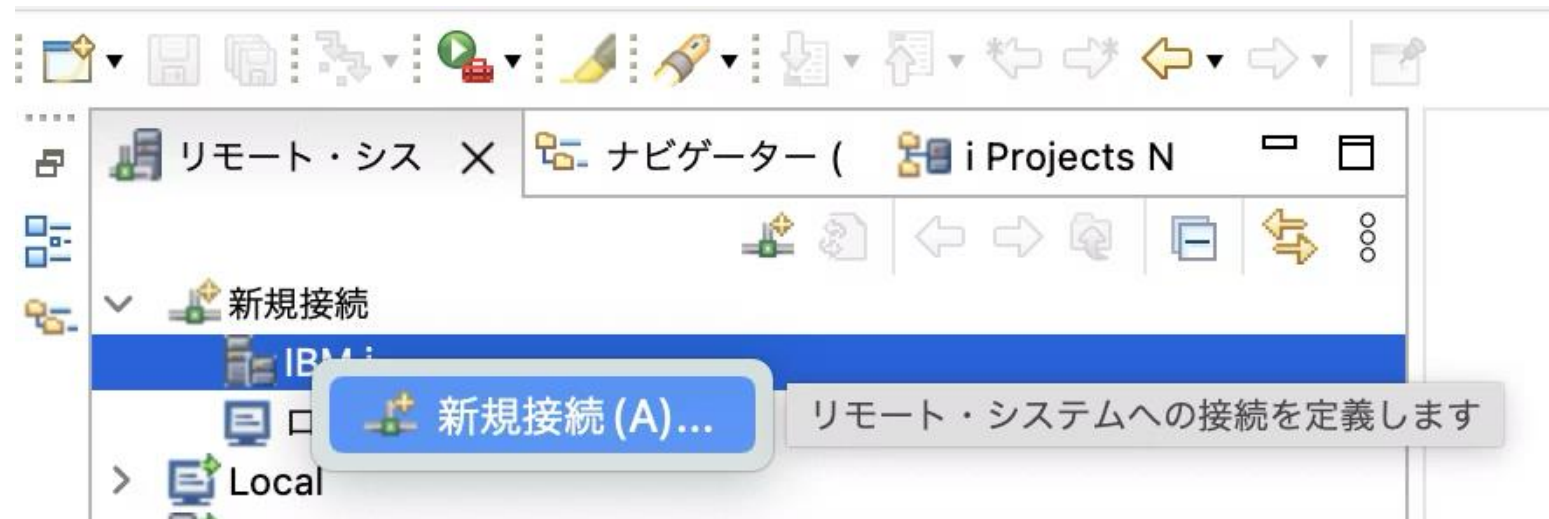


2-2. 実際に使ってみよう

Rational Developer for i (RDi) と IBM i の接続

Rational Developer for i (RDi) と IBM i の接続

- Rational Developer for i (RDi) と IBM i の接続を実施します。
- リモート・システム・ビューの新規接続の下に”IBM i“があるので、右クリックして新規接続をクリックします。



Rational Developer for i (RDi) と IBM i の接続

- 接続する IBM i の情報を入力し、次へを選択します。
- 証明書を登録せずに接続する場合は、"セキュア通信方式を使用"のチェックを外します。

新規接続

リモート IBM i システム接続

接続情報を定義します

親プロファイル: sk301448noMacBook-Air

ホスト名: localhost

接続名: localhost

記述:

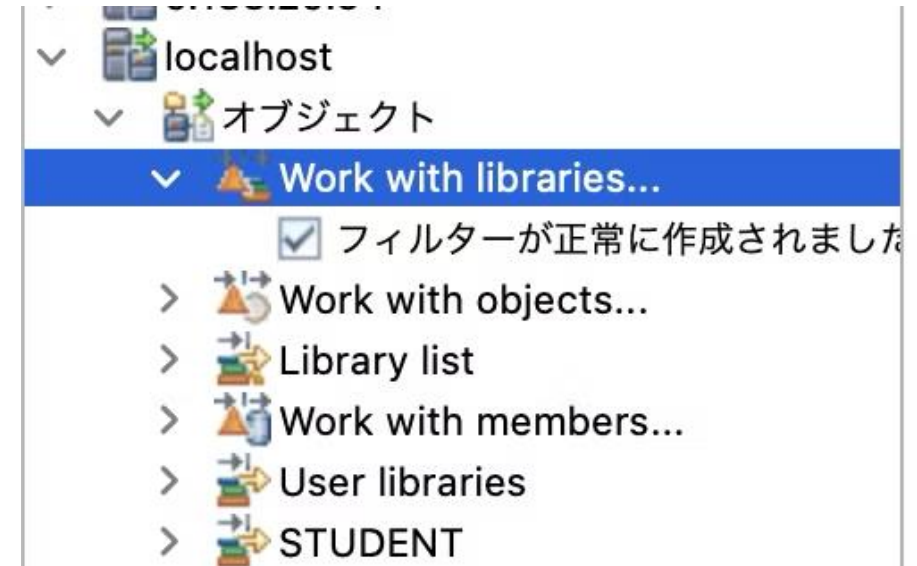
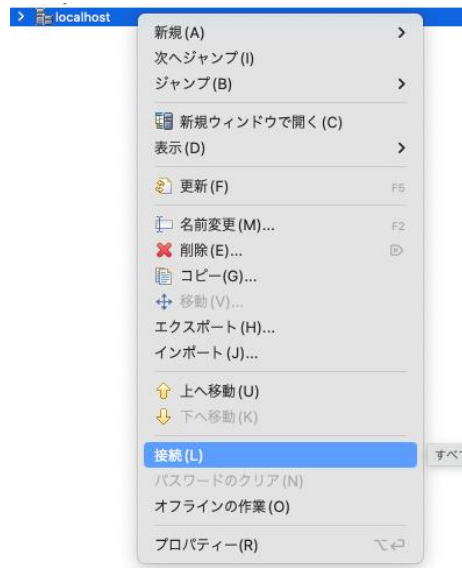
☐ ホスト名の確認

[プロキシ設定の構成](#)

? < 戻る (B) 次へ (N) > キャンセル 終了 (F)

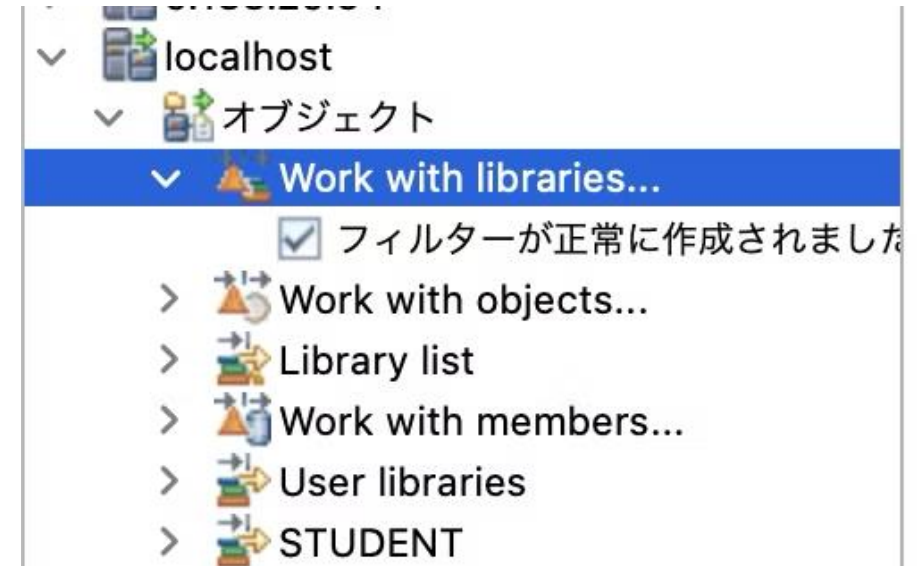
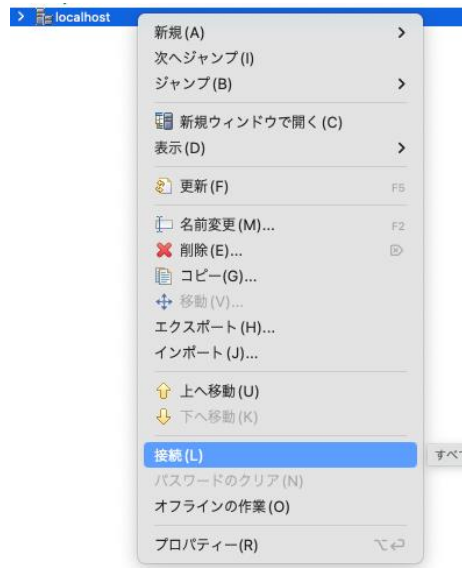
Rational Developer for i (RDi) と IBM i の接続

- 先ほど作成した接続名を右クリックし、メニューを開きます。
- 接続を選択し、ユーザー・プロファイルでログインします。
ユーザーID、パスワードをそれぞれ入力し「OK」ボタンを押します。
- パスワード横のボタンを押すことでパスワードが表示されます。
- 接続が成功すると、リモート・システム・ビューにライブラリーが表示されます。



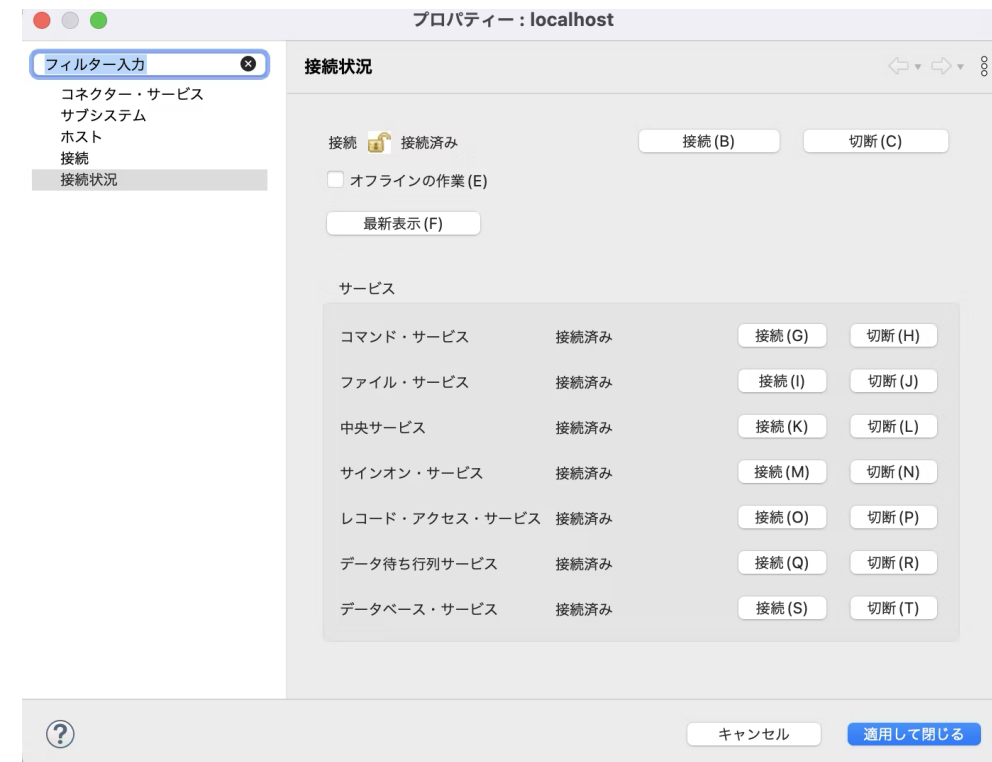
Rational Developer for i (RDi) と IBM i の接続

- 先ほど作成した接続名を右クリックし、メニューを開きます。
- 接続を選択し、ユーザー・プロファイルでログインします。
ユーザーID、パスワードをそれぞれ入力し「OK」ボタンを押します。
- パスワード横のボタンを押すことでパスワードが表示されます。
- 接続が成功すると、リモート・システム・ビューにライブラリーが表示されます。



Rational Developer for i (RDi) と IBM i の接続

- プロパティを開き、必要なサービスが開始/接続されているかを確認します。接続されていなければ、接続を押します。
- 接続ができない場合は以下のポートとの接続確認を実施してください。
- 8470: IBM i セントラルサーバー
- 8475: IBM i リモート コマンド サーバー
- 8476: IBM i サインオンサーバー
- 446: IBM i DRDA® (レコード アクセス) サーバー
- 449: IBM i サーバー マッパー サーバー

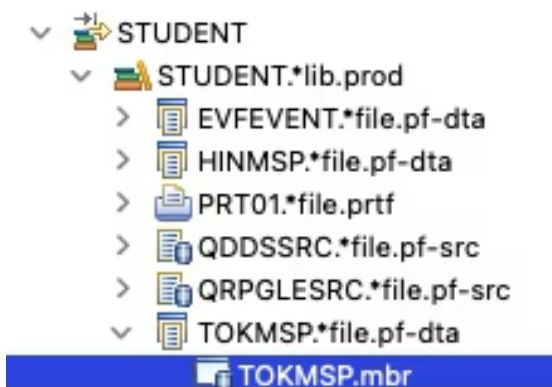


2-3. 実際に使ってみよう

ソースメンバーの編集・コンパイル

ソースメンバーの編集・コンパイル

- 今回使用するライブラリ「STUDENT」内にある、物理ファイル「TOKMSP」の中身を確認します。
TOKMSP.mbrを右クリックし、テーブルでの表示をクリックします。
- 「データテーブル」タブに表形式でデータが表示されます。

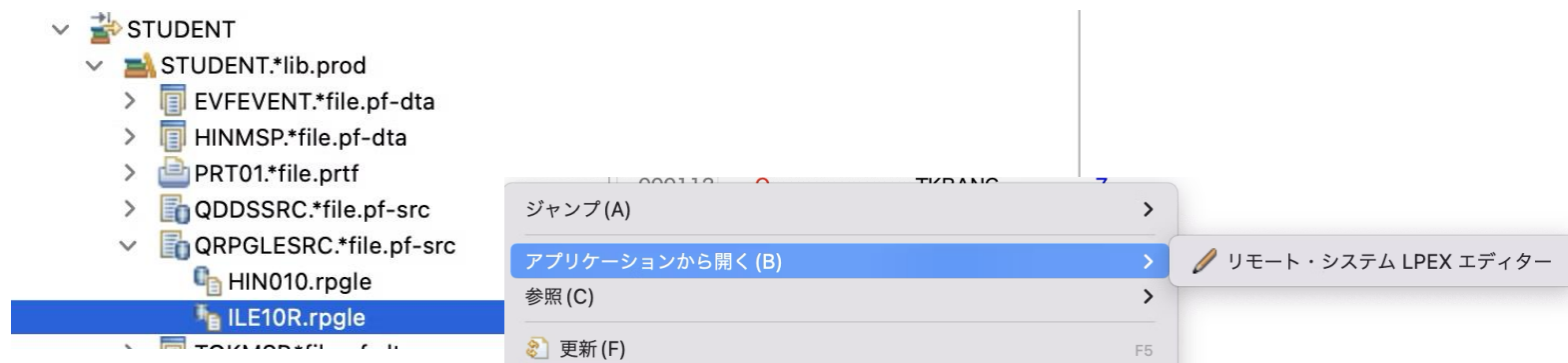


localhost:STUDENT/TOKMSP(TOKMSP)

TKNAKN	TKNAKJ	TKADR1	TKADR2	TK	TKPC	TKTELE	TKGURI	TKNUR
010 アイリヤン	阿井旅館	東京都渋谷区	桜ヶ丘 2 9	03	150	03-504-925	698,500	4,086,31
010 アイリヤン	阿井工業	東京都渋谷区	渋谷 1 - 3	02	150	03-535-595	452,800	2,713,60
010 アイリヤン	阿井旅行社	東京都品川区	東五反田 1 - 1 1	05	140	03-934-794	3,028,30	18,083,1
010 アイリヤン	相川カメラ	東京都新宿区	四谷 1 - 1 6	03	160	03-354-301	367,900	2,011,70
010 アイリヤン K.K	相川広告 K. K	東京都渋谷区	広尾 3 - 9	02	150	03-368-636	318,000	1,461,70
011 アイリヤン K.K	相川運輸 K. K	東京都杉並区	西荻 3 - 2 3	04	167	03-920-593	84,200	133,300
012 アイリヤン K.K	相川広告社	東京都新宿区	西新宿 4 - 3 1	03	160	03-783-417	487,800	2,738,10
012 アイリヤン K.K	相川包装 K. K	東京都新宿区	大久保 2 - 1 8	03	160	03-893-235	227,000	1,310,50
012 アイリヤン K.K	アイデア産業 K. K	東京都渋谷区	神宮前 1 - 1 1	02	150	03-318-285	70,200	248,900
012 アイリヤン K.K	アイデア協会 K. K	東京都杉並区	荻窪 4 - 2 1	04	167	03-471-881	1,799,100	10,248,6
012 アイリヤン K.K	愛電器商会	東京都杉並区	上高井戸 1 - 5	04	168	03-190-469	1,554,900	9,071,70
020 アイリヤン K.K	相川酒造 K. K	東京都品川区	東品川 5 - 1	02	150	03-636-485	761,200	4,260,70
020 アイリヤン K.K	阿井電器商会	東京都新宿区	北新宿 1 - 2 0	03	160	03-302-854	2,599,80	15,005,6
021 アイリヤン K.K	相川鉄工 K. K	東京都新宿区	歌舞伎 1 - 1 8	03	160	03-551-551	616,700	3,650,20
021 アイリヤン K.K	伊木装飾	東京都墨田区	向島 3 - 2	05	131	03-491-721	816,500	4,843,10
022 アイリヤン K.K	伊木電器商会	東京都品川区	西五反田 4 - 3	01	140	03-189-490	1,183,900	6,800,30
030 アイリヤン K.K	角川旅行 K. K	東京都渋谷区	千駄谷 5 - 2 1	02	150	03-183-666	2,496,70	14,806,5
031 アイリヤン K.K	角川製菓	東京都渋谷区	道玄坂 1 - 1 5	02	150	03-344-985	2,963,40	17,536,5
031 アイリヤン K.K	角川化学 K. K	東京都新宿区	西早稲田 2 - 2 0	03	162	03-147-941	549,000	3,038,30
032 アイリヤン K.K	角川電子工業	東京都杉並区	上高井戸 1 - 2 5	04	168	03-405-785	2,321,000	13,533,1
032 アイリヤン K.K	角隅工業	東京都新宿区	高田馬場 1 - 2 5	03	160	03-955-425	5,051,600	30,067,2

ソースメンバーの編集・コンパイル

- 「LPEX エディター」を用いてソースメンバーを編集します。
- RSEのオブジェクトビューから、ライブラリー(STUDENT) → ソースファイル(QRPGLESRC) → ソースメンバー(ILE10R) を辿り、対象メンバー(ILE10R)を右クリックします。
- アプリケーションから開く → LPEX エディター を選択します。



- 接続状況により、表示に時間がかかる場合があります。
右下にメンバーのダウンロード状況が表示されます。



ソースメンバーの編集・コンパイル

- ソースを編集します。RPG/DDS いずれも、ソース行にカーソルを置いた状態で、F4を押下することでエディター下部にプロンプター起動します。
- 行タイプを選択することで、選択したタイプのプロンプターが出現します。
- 変更が終わったら、適用ボタンを押下します。

```
.....O.....N01N02N03Field+++++++YB.End++PCConstant/Editword/DTformat++Comments+++++++
000100
000101 * ハンズオン資料に習って入力してください
000102 HXXXXXXXXX
000103 * ハンズオン資料に習って入力してください
000104 FXXXXX DISK
000105 FQPRINT O F 132 PRINTER
000106 * ハンズオン資料に習って入力してください
000107 C READ XXXXXXXX
000108 C DOW NOT %EOF(TOKMSP)
000109 C EXCEPT MEISAI
000110 C READ TOKMSP
000111 C ENDDO
000112 C EVAL *INLR="ON"
000113 C RETURN
000114 ** ハンズオン資料に習って入力してください
000115 OXXXXXX D XXXXX
000116 O TKBANG 7
000119 O TKTIKU 55
000120 O TKUZAN J 69
000121 O TKNYUK 81
```

(メイン・プロシージャ)

ソース・プロンプター X

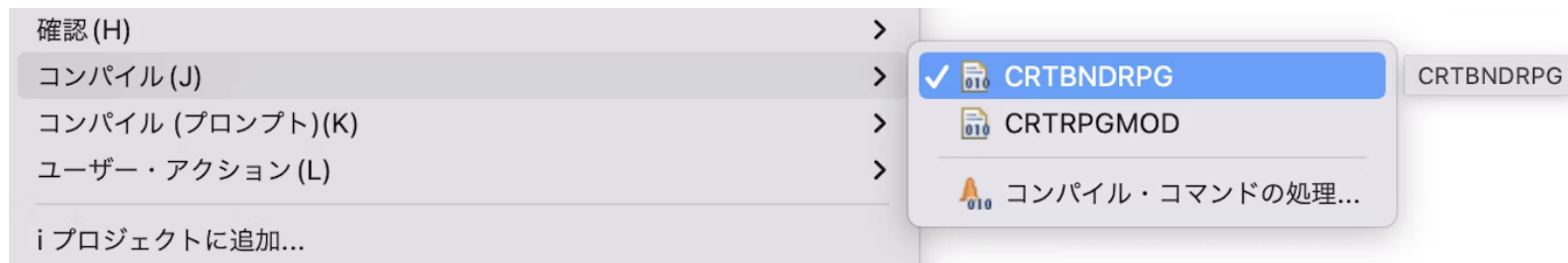
行タイプ: O: 出力、フィールド記述

標準	標準	標準	フィールド	編集	印刷後	データ			
N01	N02	N03	名	コード	ブランク	終了桁	フォーマット	定数、編集語、データ属性、フォーマット名	コメント
			TKBANG			7			

```
.....O.....N01N02N03Field+++++++YB.End++PCConstant/Editword/DTformat++Comments+++++++
O TKBANG 7
```

ソースメンバーの編集・コンパイル

- コンパイルを実施します。
- 編集したソースをCtrl+Sで保存します。
保存後、編集したソースを右クリック→コンパイル→CRTBNDRPGを選択します。



- コンパイルが完了すると結果がコマンドログおよびエラーリストに表示されます。

コマンド・ログ
データ・テーブル
localhost

表示された場合には、プログラムは最適化されたILEプログラムです。最適化によって単一ステートメント番号を判別することはできません。*Nが値として表示された場合には、実際の値が使用できなかったことを意味します。回復手順—前にリストされた低レベル・メッセージを参照して、例外の原因を突き止めてください。エラーを訂正してから、要求を再試行してください。

ADDLIBLE LIB(STUDENT19) POSITION(*FIRST)
ライブラリーSTUDENT19がライブラリー・リストに追加された。

原因—ADDLIBLEコマンドが使用された場合には、STUDENT19がユーザー・ライブラリー・リストに追加されました。CHGSYSLIBLコマンドが使用された場合には、STUDENT19がライブラリー・リストのシステム部分に追加されました。

SBMJOB CMD(CRTBNDRPG PGM(STUDENT19/ILE10R) SRCFILE(STUDENT19/QRPGLESRC) SRCMBR(ILE10R) REPLACE(*YES) OPTION(*EVENTF) DBGVIEW(*SOURCE) JOBD(*USRPRF) JOB(ILE10R)
ジョブ137884/SAKURA/ILE10Rがライブラリー-QGPLのジョブ待ち行列QBATCHに投入された。

CRTBNDRPG PGM(STUDENT19/ILE10R) SRCFILE(STUDENT19/QRPGLESRC) SRCMBR(ILE10R) REPLACE(*YES) OPTION(*EVENTF) DBGVIEW(*SOURCE)
プログラムILE10RがライブラリーSTUDENT19に入れられました。最高の重大度は00。25/08/25の13:46:59に作成されました。

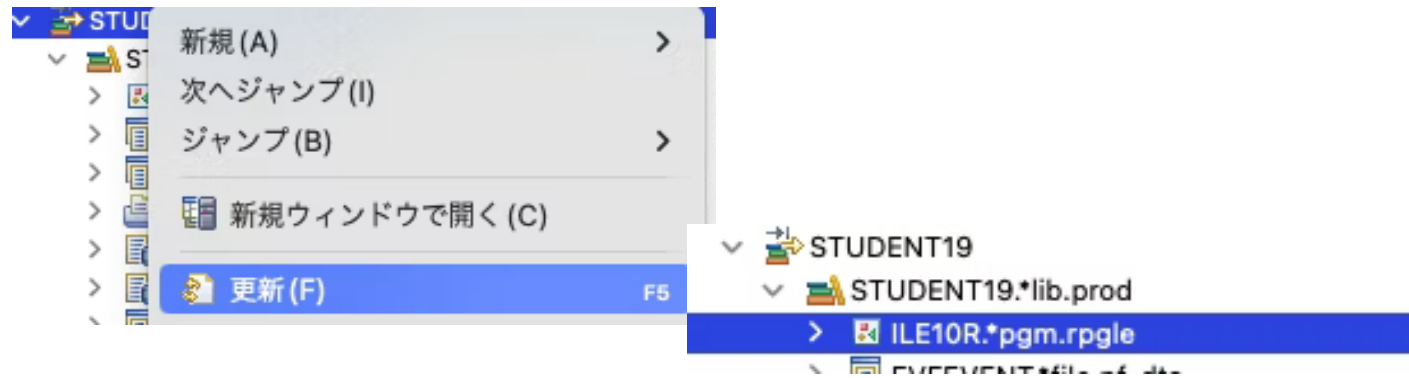
原因—プログラムILE10Rは正常にライブラリーSTUDENT19に作成されました。結果の最高のメッセージ重大度は00です。プログラム作成日および時刻は25/08/25および13:46:59です。

エラー・リスト
LOCALHOST:STUDENT19/EVFEVENT (ILE10R) (2025-08-25 13:47:02.0)

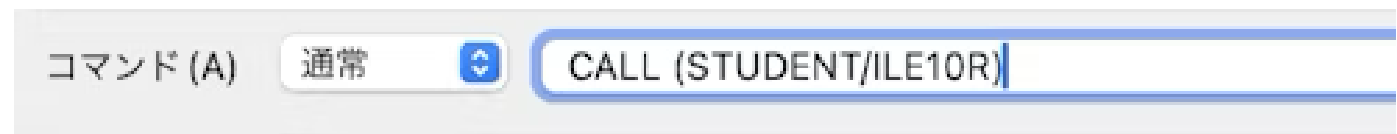
ID	メッセージ	重大度	ライン	場所	接続
i CPC5D07	プログラムILE10RがライブラリーSTUDENT19に作成された。	00	0		localhost
i RNF7031	名前または標識TKNURIが参照されていない。	00	5	STUDENT19/QRPGLESRC(ILE10R)	localhost
i RNF7031	名前または標識TKPOSTが参照されていない。	00	5	STUDENT19/QRPGLESRC(ILE10R)	localhost
i RNF7031	名前または標識TKSIMEが参照されていない。	00	5	STUDENT19/QRPGLESRC(ILE10R)	localhost
i RNF7031	名前または標識TKTELEが参照されていない。	00	5	STUDENT19/QRPGLESRC(ILE10R)	localhost
i RNF7031	名前または標識TKZURIが参照されていない。	00	5	STUDENT19/QRPGLESRC(ILE10R)	localhost
i RNF7066	入力または出力でレコード様式TOKMSRは使用されない。	00	5	STUDENT19/QRPGLESRC(ILE10R)	localhost
i RNF7086	RPGはファイルTOKMSPのブロック化を処理する。INFDSは、データのブロックが転送さ	00	5	STUDENT19/QRPGLESRC(ILE10R)	localhost
i RNF7031	名前または標識TKADR2が参照されていない。	00	5	STUDENT19/QRPGLESRC(ILE10R)	localhost
i RNF7031	名前または標識TKGENDが参照されていない。	00	5	STUDENT19/QRPGLESRC(ILE10R)	localhost

ソースメンバーの編集・コンパイル

- コンパイルを実施した、プログラムを確認します。
- コンパイル先のライブラリを右クリックし、更新します。
生成されたプログラムを確認します。

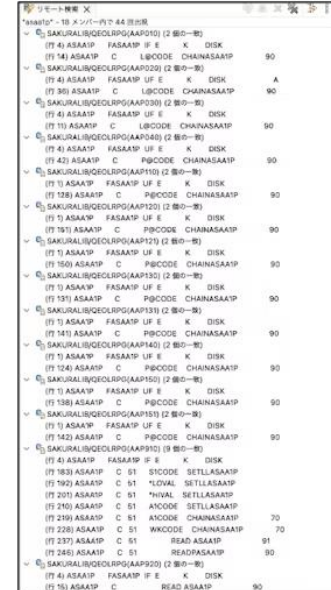
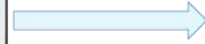
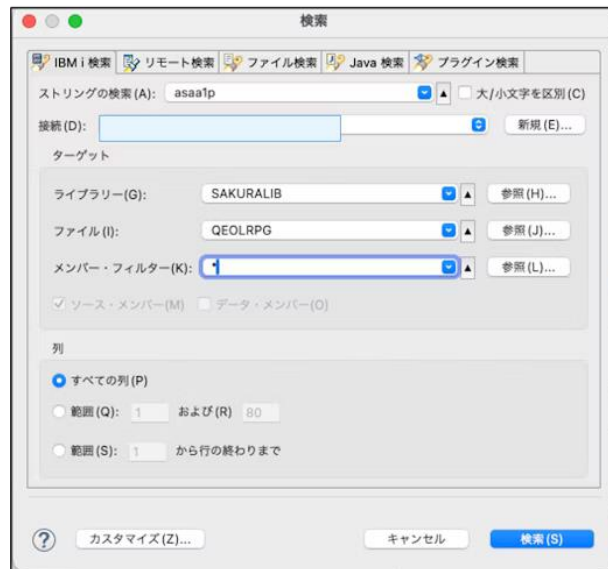


- プログラムを実行します。
バッチ型のプログラムであれば、RDiのコマンドログ内のコマンド欄から実行可能です。

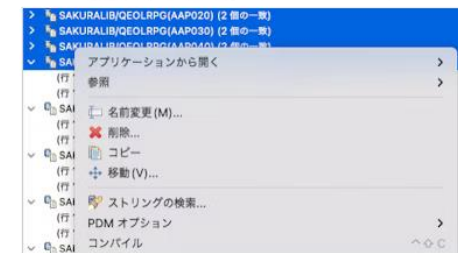


ソースメンバーの編集・コンパイル

- スtring検索をかけたものに対するコンパイルも可能です。
- 「管理エリア」にカーソルを合わせ、RDiの検索（Ctrl+H）で表示される「IBM i Search / Multi-File Search」でライブラリ/ソースファイル/メンバーをまたいだ文字列検索が可能です。
右側の「リモート検索欄」に結果が表示されます。
検索でヒットしたものに対して複数選択を実施し、コンパイルが実行可能です。



複数選択をしてコンパイル

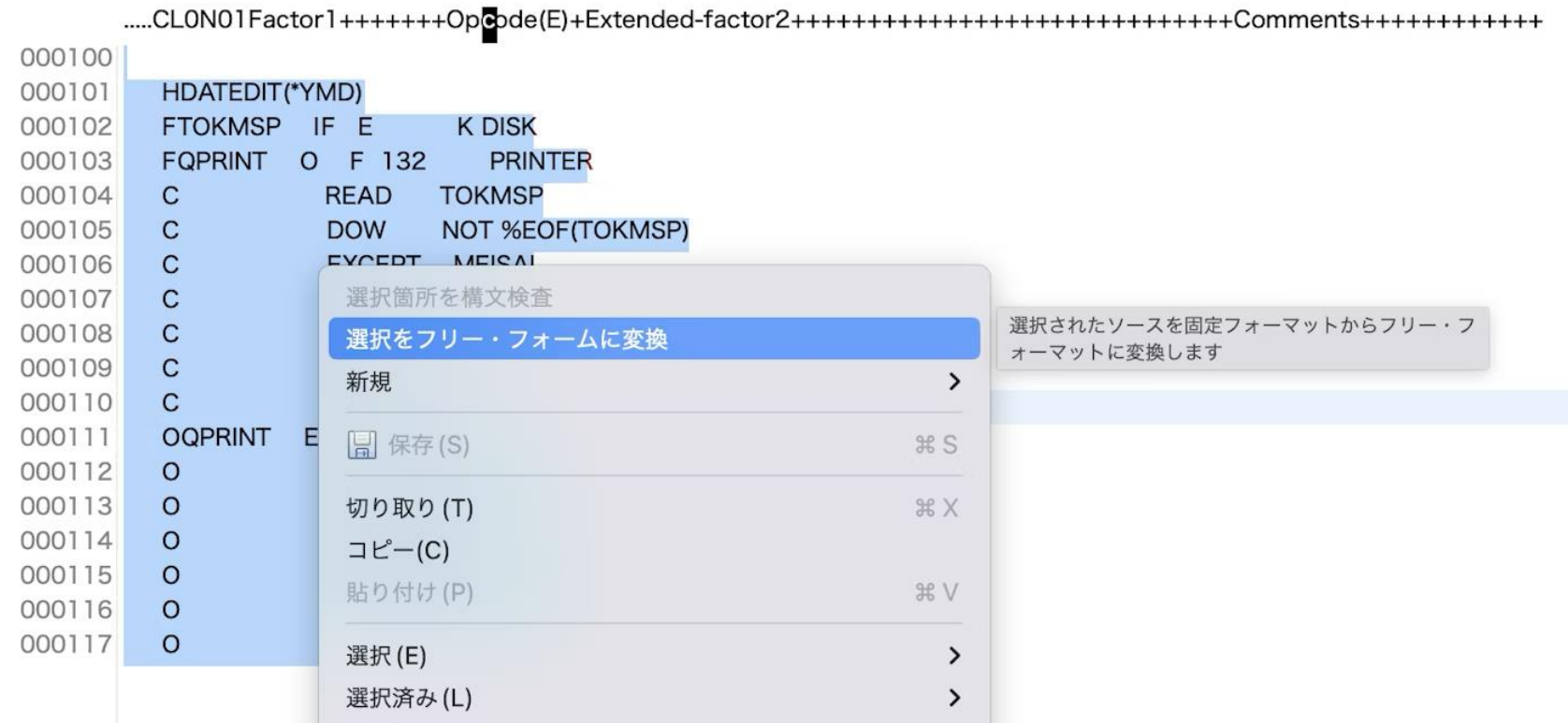


2-4. 実際に使ってみよう

固定長ソースをFF RPGに変換 デバッグ機能の起動

固定長ソースをFF RPGに変換

- 固定長ソースを全選択肢、右クリックをすると「選択をフリー・フォームに変換」が表示されます。
実行することで固定長ソースをFF RPGに変換できます。



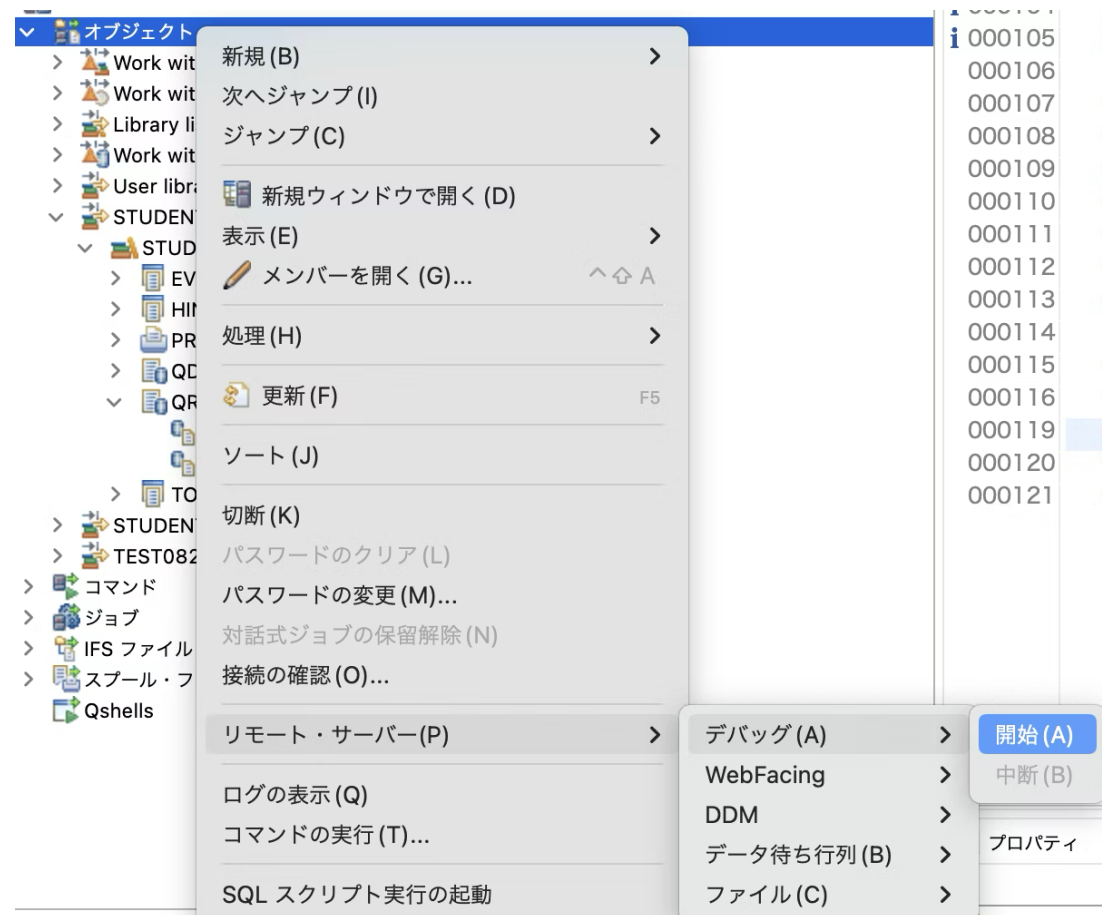
デバッグ機能の起動

- 設定にてデバッグサーバーの設定を確認します。
プログラムの実行中に実働ファイルを更新する場合は、設定の「IBM i デバッグ」の実働ファイルを更新するにチェックを入れてください。
- 設定が完了したら適用を押下し、閉じるを選択します。



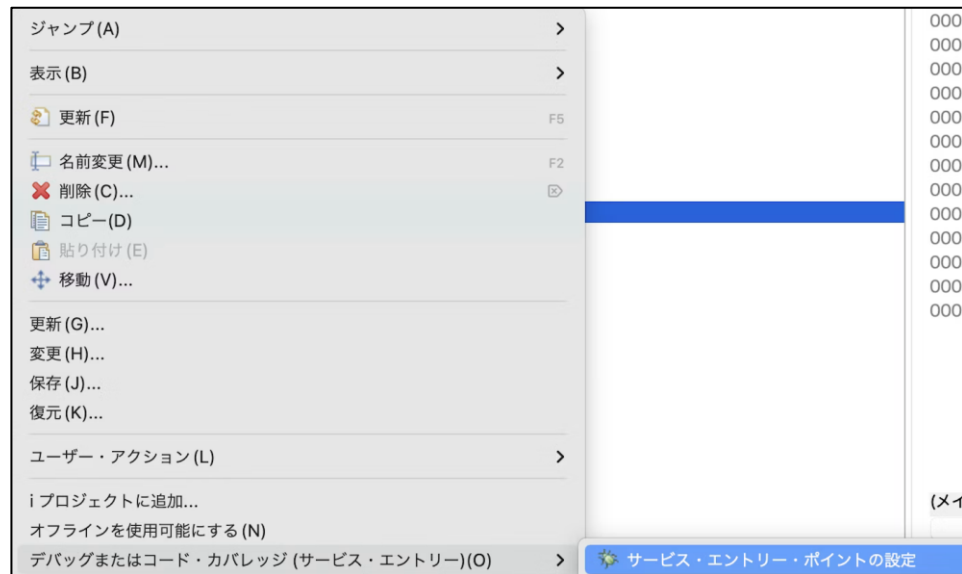
デバッグ機能の起動

- オブジェクトを右クリックし、リモートサーバー->デバッグ->開始を選択します。
※5250画面からSTRBGSSVRコマンドを起動するのと同じ操作をしています。



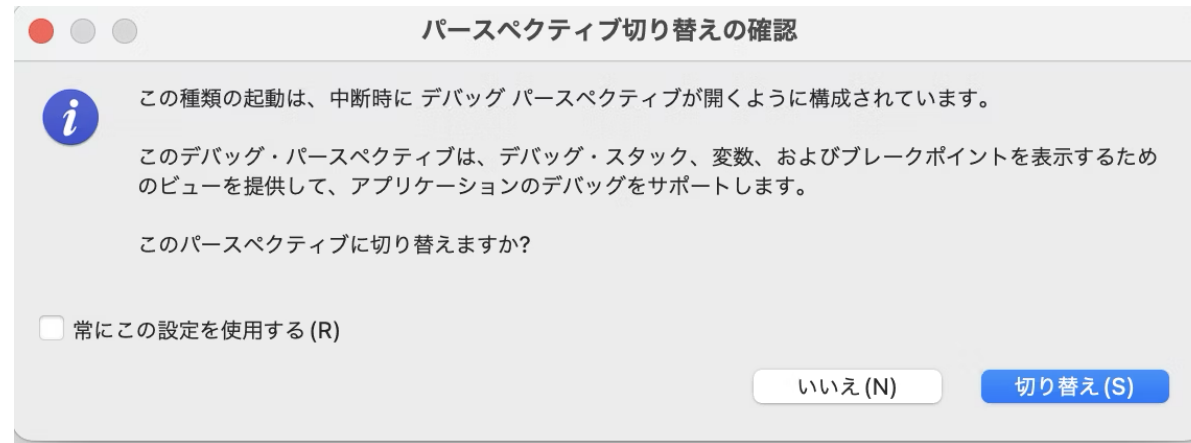
デバッグ機能の起動

- RDiからエン트리ブ레이크ポイントを設定する「サービスエン트리ポイント機能」を起動します。
- デバッグを行いたいプログラムを右クリックし、「デバッグまたはコード・カバレッジ（サービス・エン 트리）」「サービス・エン 트리・ポイントの設定」を選択します。
- サービス・エン 트리・ポイントがしく設定されたことを示すメッセージおよび「IBM i サービス・エン 트리・ポイント」ビューが表示されます。

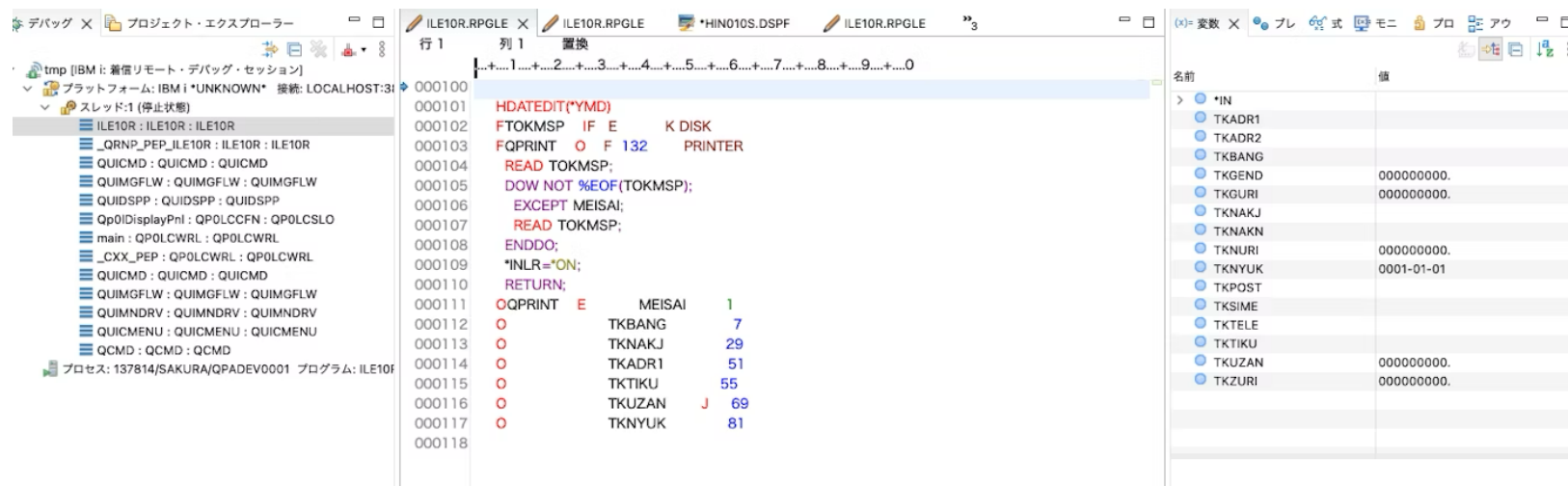


デバッグ機能の起動

- プログラムをCallすると以下のような切り替え画面が表示されます。



- 切り替えを押すとデバッグ・パースペクティブが表示されます。



3. 補足情報

1. IBM Rational Developer for i Hub
https://www.ibm.com/support/pages/ibm-rational-developer-i-hub?utm_source=chatgpt.com
2. RDi マニュアル
<https://www.ibm.com/docs/en/rdfi/9.8.0>
3. RDi 9.9発表 (出荷開始 2025年12月5日)
<https://www.ibm.com/docs/ja/announcements/rational-developer-i-rpg-cobol-tools-edition-v99>
4. RDi 9.8サポート終了
<https://www.ibm.com/docs/ja/announcements/software-withdrawal-support-discontinuance-rational-developer-i-98>

発表日 : 2025年10月28日
レター番号 : [AD25-1654](#)

製品名	営業活動終了日	サービス終了日	後継製品 および 代替製品
IBM Rational Developer for i 9.8	2026年1月27日	2026年4月30日	IBM Rational Developer for i 9.9

今後のIBM i 関連イベントの予定 (IBM主催 – 通年開催分)

時期	セミナー名	内容	URL等
通年開催	IBM Power Salon	IBM Powerユーザー向けWebサロン。 8月を除く毎月第二水曜日9-10AM開催	https://ibm.biz/power-salon 
通年開催	IBM i Club	IBM i ユーザーコミュニティー	https://ibm.biz/ibmiclub
通年開催	IBM i リスキリングカレッジ	IBM i の最新スキル習得	過去ビデオ↓ https://ibm.biz/reskill 
通年開催 (本年度募集終了)	IBM i RiSING 若手コミュニティー	IBM i 若手コミュニティー。 年末-年初に来年度募集を予定。	https://ibm.biz/IBMiRiSING

今後のIBM i 関連イベントの予定 (IBM主催 – 個別開催分)



時期	セミナー名	内容	URL等
11/27 (木) 10AM - 6PM	IBM i Advantage 2025	IBM i ユーザー向けセミナー。今年は外部会場 (新宿) にて開催。i-Evo も同日開催。	https://ibm.biz/ibmiadvantage2025
12/3 (水) 終日	IBM TechXchange Japan	日本IBMの製品・サービスの総合セミナー	2024年セミナー (終了分) 案内↓ https://ibm.biz/txjapan

IBM i 関連情報 (2025/05/09 更新)

IBM i ポータル・サイト

<https://ibm.biz/ibmijapan>

i Magazine (IBM i 専門誌。春夏秋冬の年4回発刊)

<https://www.imagazine.co.jp/IBMi/>

IBM i World 2024 オンデマンド・セミナー

<https://video.ibm.com/recorded/133917616>

IBM i World 2023 オンデマンド・セミナー

<https://ibm.biz/ibmiworld2023>

IBM i World 2022 オンデマンド・セミナー

<https://video.ibm.com/recorded/132423205>

月イチIBM Power情報セミナー「IBM Power Salon」

<https://ibm.biz/power-salon>

IBM i 関連セミナー・イベント

<https://ibm.biz/powerevents-i>

IBM i Club (日本のIBM i ユーザー様のコミュニティー)

<https://ibm.biz/ibmiclubjapan>

IBM i 研修サービス (i-ラーニング社提供)

<https://www.i-learning.jp/service/it/iseriess.html>

IBM TechXchange Powerユーザーコミュニティー (日本)

<https://ibm.biz/ibm-power-user-community>

IBM i RiSING - IBM i 若手技術者コミュニティー

<https://ibm.biz/ibmirising2025>

新・IBM i入門ガイド [操作・運用編]

<https://www.imagazine.co.jp/01-ibm-i-jikkoukankyou-of-ibm-i-nyumon-guide-sousa-unyou/>

新・IBM i入門ガイド [開発編]

<https://www.imagazine.co.jp/01-development-tools-of-ibm-i-nyumon-guide-kaihatsu/>

これから使う人のためのIBM i入門ガイド (旧バージョン)

<https://www.imagazine.co.jp/imagazine-7071/>

IBM i 情報サイト iWorld

<https://ibm.biz/iworldweb>

IBM i 製品とサポートのロードマップ

<https://ibm.biz/ibmiroadmap2024>

IBM i 7.6 技術資料

<https://www.ibm.com/docs/ja/i/7.6.0?topic=documentation-overview-whats-new>

IBM Power ソフトウェアのダウンロードサイト (ESS)

<https://ibm.biz/powerdownload>

Fix Central (HW・SWのFix情報提供)

<https://www.ibm.com/support/fixcentral/>

IBM My Notifications (IBM IDの登録 [無償] が必要)

「IBM i」 「9105-41B」 などPTF情報の必要な製品を選択して登録できます。

<https://www.ibm.com/support/mynotifications>

IBM i 各バージョンのライフサイクル

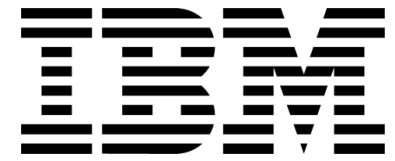
<https://www.ibm.com/support/pages/release-life-cycle>

IBM i 以外のSWのライフサイクル (個別検索)

<https://www.ibm.com/support/pages/lifecycle/>

IBM Power Systems Virtual Server 情報

<https://ibm.biz/pvsjapan>



ワークショップ、セッション、および資料は、IBMによって準備され、IBM独自の見解を反映したものです。それらは情報提供の目的のみで提供されており、いかなる読者に対しても法律的またはその他の指導や助言を意図したのではなく、またそのような結果を生むものでもありません。本資料に含まれている情報については、完全性と正確性を期するよう努力しましたが、「現状のまま」提供され、明示または暗示にかかわらずいかなる保証も伴わないものとします。本資料またはその他の資料の使用によって、あるいはその他の関連によって、いかなる損害が生じた場合も、IBMは責任を負わないものとします。本資料に含まれている内容は、IBMまたはそのサプライヤーやライセンス交付者からいかなる保証または表明を引きだすことを意図したものでも、IBMソフトウェアの使用を規定する適用ライセンス契約の条項を変更することを意図したものでもなく、またそのような結果を生むものでもありません。

本資料でIBM製品、プログラム、またはサービスに言及していても、IBMが営業活動を行っているすべての国でそれらが使用可能であることを暗示するものではありません。本資料で言及している製品リリース日付や製品機能は、市場機会またはその他の要因に基づいてIBM独自の決定権をもっていつでも変更できるものとし、いかなる方法においても将来の製品または機能が使用可能になると確約することを意図したものではありません。本資料に含まれている内容は、読者が開始する活動によって特定の販売、売上高の向上、またはその他の結果が生じると述べる、または暗示することを意図したものでも、またそのような結果を生むものでもありません。パフォーマンスは、管理された環境において標準的なIBMベンチマークを使用した測定と予測に基づいています。ユーザーが経験する実際のスループットやパフォーマンスは、ユーザーのジョブ・ストリームにおけるマルチプログラミングの量、入出力構成、ストレージ構成、および処理されるワークロードなどの考慮事項を含む、数多くの要因に応じて変化します。したがって、個々のユーザーがここで述べられているものと同様の結果を得られると確約するものではありません。

記述されているすべてのお客事例は、それらのお客様がどのようにIBM製品を使用したか、またそれらのお客様が達成した結果の実例として示されたものです。実際の環境コストおよびパフォーマンス特性は、お客様ごとに異なる場合があります。

IBM、IBM ロゴ、ibm.com、Db2、Rational、Power、POWER8、POWER9、POWER10、AIXは、世界の多くの国で登録されたInternational Business Machines Corporationの商標です。

他の製品名およびサービス名等は、それぞれIBMまたは各社の商標である場合があります。

現時点での IBM の商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtml をご覧ください。

インテル、Intel、Intel ロゴ、Intel Inside、Intel Inside ロゴ、Centrino、Intel Centrino ロゴ、Celeron、Xeon、Intel SpeedStep、Itanium、およびPentium は Intel Corporationまたは子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linuxは、Linus Torvaldsの米国およびその他の国における登録商標です。

Microsoft、Windows、Microsoft Excel、Windows NT および Windows ロゴは Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標です。

UNIXはThe Open Groupの米国およびその他の国における登録商標です。

JavaおよびすべてのJava関連の商標およびロゴは Oracleやその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。